



平成 23 年 11 月 17 日

各 位

会 社 名	株式会社クロニクル
代 表 者 名	代表取締役社長 石神 剛 (JASDAQ・コード 9822)
問合せ先役職・氏 名	常務取締役管理本部長 久保田 峰夫
電 話	03-5771-1200 (代 表)

## 営業外損失の発生、特別損失の発生、平成 23 年 9 月期通期(連結)の業績予想と実績値との差異並びに平成 23 年 9 月期通期(個別)の前期実績との差異に関するお知らせ及び剰余金の配当に関するお知らせ

当社は、平成 23 年 9 月期において営業外損失、特別損失を計上することといたしましたのでお知らせいたします。また、営業外損失、特別損失の発生等に伴い、平成 23 年 5 月 13 日に公表いたしました平成 23 年 9 月期通期の業績予想及び平成 23 年 9 月期の個別実績と前期実績に差異が生じたのでお知らせするとともに、本日開催の取締役会において、配当金(平成 23 年 9 月 30 日を基準日とする剰余金の配当)について下記のとおり決議いたしましたのでお知らせいたします。

### 記

#### 1. 連結の営業外損失の発生及びその内容

平成 23 年 9 月期において、急激な為替相場の変動の影響により為替差損 61 百万円を計上、営業貸付金の回収可能性が無くなったことにより、破産更生債権等へ振り替えたこと等により同額の貸倒引当金を設定したことにより貸倒引当金繰入額 331 百万円を計上したため、連結の営業外費用として 402 百万円を計上することといたしました。

#### 2. 特別損失の発生及びその内容

##### (1) 連結の特別損失の発生について

平成 23 年 9 月期において、当社商品の委託先の倒産等による商品回収が不能となったことにより委託商品評価損 154 百万円を計上することとしたほか、営業活動から生じる損益が継続してマイナスとなる資産グループについて減損損失を認識したため、減損損失 146 百万円を計上、株式会社 GRS ホールディングスに対する訴訟和解金 12 百万円、名義書換代理人の変更に伴う株主名簿引継手数料 25 百万円、商品廃棄損 29 百万円、平成 23 年 8 月 3 日に急逝致しました当社元代表取締役会長天野裕氏の社葬費用 5 百万円等の 374 百万円を計上することといたしました。

##### (2) 個別の特別損失の発生について

平成 23 年 9 月期において、業績不振により子会社の株式評価損 942 百万円、株式会社 GRS ホールディングスに対する訴訟和解金 12 百万円、名義書換代理人の変更に伴う株主名簿引継手数料 25 百万円、平成 23 年 8 月 3 日に急逝致しました当社元代表取締役会長天野裕氏の社葬費用 5 百万円等の 988 百万円を計上することといたしました。

### 3. 平成 23 年 9 月期通期連結業績予想数値の修正

(平成 22 年 10 月 1 日～平成 23 年 9 月 30 日)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1 株当たり 当期純利益
前回発表予想 (A) (平成 23 年 5 月 13 日発表)	百万円 3,000	百万円 △600	百万円 △600	百万円 △650	円 銭 △13.66
今回発表予想 (B)	2,780	△756	△1,128	△1,421	△29.44
増減額 (B - A)	△220	△156	△528	△771	△15.78
増減比率 (%)	△7.33	—	—	—	—
前期実績 (平成 22 年 9 月 30 日)	3,509	△648	△690	△893	△2.00

(注)当社は、平成 23 年 2 月 28 日に 10 株を 1 株にする株式併合を行っており、今回実績値の 1 株当たり当期純利益の算出は併合後の株式数にて算出しております。

### 4. 平成 23 年 9 月期通期個別業績と前期実績との差異

(平成 22 年 10 月 1 日～平成 23 年 9 月 30 日)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1 株当たり 当期純利益
前期実績 (A) (平成 23 年 9 月 30 日)	百万円 99	百万円 △283	百万円 △408	百万円 △581	円 銭 △1.30
今期実績額 (B)	107	△273	△886	△1,732	△35.88
増減額 (B - A)	6	10	△478	△1,151	△34.58
増減比率 (%)	△6.06	—	—	—	—

(注)当社は、平成 23 年 2 月 28 日に 10 株を 1 株にする株式併合を行っており、今回実績値の 1 株当たり当期純利益の算出は併合後の株式数にて算出しております。

### 5. 業績予想との差異が生じた理由

セグメント別(連結売上高)

平成 23 年 9 月期連結業績予想と実績値の差異(平成 22 年 10 月 1 日～平成 23 年 9 月 30 日)

事業種別	当初予想値(百万円)	実績値(百万円)	増減率(%)
宝飾品事業	610	686	12.6%
投資事業	50	14	△71.6%
WEB 情報事業	1,900	1,665	△12.3%
流通サービス事業	400	376	△5.9%
リサイクル事業	40	37	△6.8%
合計	3,000	2,780	△7.3%

今回の業績予想の差異に関して大きな変動要素として、WEB情報事業における収益性の低迷及び宝飾品事業における収益性の低下及び特別損失の発生があります。

現在の日本経済における経済環境は、一昨年より続く低迷状況を完全には脱しておらず厳しい状況が続いております。

当社と致しましては、平成22年12月3日に株式会社クリエイト24(旧株式会社クリエイトニジュウイチ)及び株式会社エフデータ・クリエイションを新たに加え、グループ事業全体の拡大を行いました。

また、流通サービス関連事業並びにリサイクル事業の新規展開による収益の拡大に努めてまいりまし

た。

しかしながら、平成23年3月11日に発生いたしました東日本大震災の影響により、宝飾品事業の急激な売上の低迷やWEB情報事業の通販関連における売上低下、流通ルートが混迷、さらには、流通サービス関連事業の東北地区の顧客の激減、取引先の営業時間の短縮、リサイクル事業の新規展開の一時中止等により、売上高は確保出来るものの収益面におきましては多大な影響を受けざるを得ない結果となりました。

平成23年8月3日に当社元代表取締役会長天野裕氏が急逝したことにより、グループ全体において、今後のビジネスプランの大幅な変更を余儀なくされることとなりました。

各事業別に見ますと以下のとおりとなります。

#### 「宝飾品事業」

当期における宝飾品事業は、厳しい環境ながらも前半は、前年を24%上回る業績となっておりましたが、平成23年3月11日に起きました東日本大震災の影響により日本経済の低迷と共に3月中旬以降急速に業績が悪化し、期首に予定しておりました業績予想の数値を大幅に下回る686百万円(前年比115百万円減、14.4%減)となりました。

これは、震災以後急速に低下した、嗜好品への一般消費者の購買意欲の低迷及び円高による既存在庫品の販売価格(原価)の割高感による在庫回転率の低迷等があいまったことによるものであります。

#### 「投資事業」

投資事業につきましては、前連結会計年度と同様に推移すると判断し、通期50百万円と予想しておりました投資事業は、14百万円にとどまりました。

#### 「WEB 情報事業」

当期におけるWEB情報事業は、宝飾事業と同様に、震災による購買意欲の低迷及び流通経路の混迷によるWEB通販上における受注機会の逸による売上低迷、更に平成23年6月に当該事業のサブライセンス販売が薬事法違反に抵触する旨の指摘を受けたことにより同事業の中止を行ったこと及びそれに伴い大手通信事業会社3社より契約解除を受ける結果となりました。

それにより同事業の売上は、当初の予定を大幅に下回る結果となり売上高1,665百万円(前年比855百万円減、33.9%減)となりました。

#### 「流通サービス関連事業」

流通サービス関連事業におきましては、第2四半期連結累計期間200百万円、通期710百万円と予想しておりました。第2四半期連結累計期間におきましては大きな変動は有りませんでした。今後震災影響による取引先の遊技場の閉鎖や夏場における計画停電再開懸念等による営業時間短縮等による影響を受けました。

また、一部東北地区における販売予測が大きく変動したことも大きな要因となりました。

その結果売上高は、376百万円(前期比269百万円増、251.7%増 但し前期は第4四半期より計上)に留まりました。

## 「リサイクル事業」

リサイクル事業の中心である金等の買い取りビジネスを中心に行う「黄金市場」におきましては、前半概ね予想に近い状況となりましたが、4月以降フランチャイズ展開の計画しておりました中で東北エリアにおきましては、フランチャイズ出店による業績拡大を一旦白紙にならざる状況となり、当初予定と比較し大幅な予想を下回る結果となりました。

その結果売上高は、37百万円（前期比33百万円増、864.2%増 但し前期は、第4四半期より計上）に留まりました。

※なお、本資料に記載の予想数値は本資料発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績は今後さまざまな要因によって異なる結果となる可能性があります。

## 6. 配当金の内容

本日開催の取締役会において、配当金(平成 23 年 9 月 30 日を基準日とする剰余金の配当)について下記のとおり無配とすることを決議いたしましたのでお知らせいたします。

### 配当の内容

	決定額	直近の予想配当 (平成 23 年 2 月 18 日)	前期実績
基準日	平成 23 年 9 月 30 日	同左	平成 22 年 9 月 30 日
1 株当たり配当金	無配	1 円 00 銭	—
配当金総額	—	—	—
効力発生日	—	—	—
配当原資	—	—	—

### 理由

今回、平成 23 年 9 月期連結業績が、上記「業績予想との差異が生じた理由」に記載させて頂きました理由等により、グループ全体の収益性の大幅な低迷により当初予想を大きく下回ることになり、当初見込んでおりました平成 23 年 9 月期における連結売上高 300 百万円に対し、実績値 278 百万円と未達に陥るなど収益環境が非常に厳しかったことに加え、費用の面におきましても、グループ全体の収益性の低下に伴い、営業外損益として子会社株式評価損 942 百万円をはじめとする多額の営業外費用を計上せざるを得なかったことなどから、当社個別決算においても赤字を余儀なくされたため、配当原資としておりました平成 23 年 2 月末時点の「その他資本剰余金 822 百万円」を大幅に上回る損失の計上せざるを得ない状況となり、当初予定の配当が適正に行う事が出来ない状況となりました。震災以降、当社として是が非でも復配にこだわり、多岐にわたる回復策を健闘して参りましたが、グループ全体の収益性低下に伴い、子会社の株式評価に対し減損処理を行う状況が必要となったこと、及び代表者の急逝により回復策が白紙となったため、現状において適法に配当を行うことが出来なくなり、誠に遺憾ながら期末配当は見送らせて頂かざる結果となりました。

今回の配当見送り関しましては、株主の皆様に対し多大なご迷惑をおかけ致しますことを深くお詫び申し上げます。

### <参考>年間配当の内訳

基準日	1 株当たり配当金	
	期末	年間
平成 23 年 9 月期	無配	無配
平成 22 年 9 月期	無配	無配

以上